

古典的な文章の音読、敬語についての理解

名劇

学習日

ポイント

- 古典的な文章を声に出して読みましょう。
- かんたんな敬語を理解しましょう。

基本問題

1

次の(1)・(2)の古文を、声に出して読みなさい。

(1) 今は昔、竹取のおきなといふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

(2) つれづれなるままに、日ぐらし、すずりに向かひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

2

次の(1)～(4)の——線部の言い方を、あらたまった場で話すときのいい言い方に直して書きなさい。

(1) 「わたしは、来週、デパートに行く。」

(2) 「わたしは、先週、デパートに行った。」

(3) 「わたしは、来週、デパートに行けない。」

(4) 「わたしは、先週、デパートに行けなかった。」

古典的な文章の音読、敬語についての理解

名前

学習日

チャレンジ問題

1

次の古文を声に出して読んで、あとの問いに答えなさい。

祇園精舎のかねの声、

諸行無常のひびきあり。

娑羅双樹の花の色、

盛者必衰のことわりをあらはす。

おごれる人も久しからず、

ただ春の夜の夢のごとし。

たけき者もつひにはほろびぬ

ひとへに風の前のちりに同じ。

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

(1) ③行目「娑羅双樹の花の色」のあとに省略されていることを次から一つ選び、

記号で答えなさい。

ア に イ は ウ を

(2) この古文の内容としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 実力がどんなにある者でも、油断をすれば、ほろぶことがある。

イ おとろえないようにするためには、たゆまぬ努力が必要だ。

ウ どんなものでも、同じままであり続けることはなく、変わっていく。

2

次の内容を、先生や、クラスみんなが聞いている前で話すとした場合、言い方をどのように直すのがよいですか。全体を書き直して答えなさい。

先生が昨年行ったというプールに、先週わたしも行ってきた。先生から聞いていた通り、プールの横に大きなすべり台がついていた。

古典的な文章の音読、敬語についての理解

基本問題

解答	アドバイス
<p>1</p> <p>(1) (省略)</p> <p>(2) (省略)</p> <p>2</p> <p>(1) デパートに行きます</p> <p>(2) デパートに行きました</p> <p>(3) デパートに行けません</p> <p>(4) デパートに行けませんでした</p>	<p>1</p> <p>(1) 「いふ」は「いう」と発音します。「使ひけり」は「つかいけり」と発音します。「いひける」は「いひける」と発音します。古文の「は・ひ・ふ・へ・ほ」の発音に注意しましょう。「なむ」は「なん」と発音します。</p> <p>(2) 「向かひて」は「むかいて」と発音します。「あやしう」は「あやしゅう」と発音します。なお、「そこはかとなく」は「そこわかとなく」とは発音しません。</p> <p>2</p> <p>(1) 「ます」や「です」を付けることで、ていねいな言い方にすることができます。</p> <p>(2) 「ます」は、あとに「た」が続くとき、「まし」と形が変わります。</p> <p>(3)・(4) 「行けないです」や「行けませんでした」は、正しいていねいな言い方とは言えません。</p>

古典的な文章の音読、敬語についての理解

チャレンジ問題

解答	アドバイス
<p>1 イ</p> <p>(2) ウ</p> <p>2</p> <p>先生が昨年行かれたというプールに、先週わたしも行ってきました。先生からうかがっていた通り、プールの横に大きなすべり台がありました。</p>	<p>1</p> <p>(1) 古文では、文を組み立てる「が」「は」「に」「を」などのことばの省略が多く用いられるので、ことばをおぎなうて読むことを心がけましょう。</p> <p>(2) 「春の夜の夢のごとし」「風の前のちりに同じ」などのたとえが、あらゆるものが、はかなく、うつろいやすいものであることを表しています。</p> <p>2</p> <p>自分より目上の「先生」の動作である「行った」は、うやまった言い方の「行かれた」「いらっしゃった」に直します。また、自分の動作である「聞いていた」は、へりくだった言い方の「うかがっていた」「お聞きしていた」に直します。</p>